

コスモス　　むらさき色の風車かざぐるま

橙のともしび

私はコスモスを直視することが出来ない。

幼いとき祖父母の家に見事に咲き誇っていた庭一面のコスモス。

庭からあふれ出んとするコスモス達を手入れし、誇らしげに見せていた祖父母。

世間で言う優しい祖父母ではなく、厳しく、一線を引いて、高い壁の様な存在であった二人。

花が大好きだった祖母の為に恐らく、祖父が植え始めた庭の花々。

コスモスが庭一面になる頃、私を呼び寄せ、誇らしげに見せていた。

晩年、歳のせいか庭の手入れも行き届かなくなり、荒れていった。

コスモスも無造作に咲き、整然としていた庭の姿が年々変化していった。

祖母が入退院を繰り返した頃から庭は荒れ果てていった。

綺麗に咲き誇っていたコスモスの姿はそこになかった。

祖母が他界しても祖父は同居を拒み、一人暮らしをしていた。

二人で共に過ごした家を離れたくなかったのだと近頃感じる。

二ヶ月程してやはり同居することになったが、一月もしないうちに他界した。

同じ年に祖父母を失った。

いつも強かった祖父。

祖母が亡くなり、しばらくした頃、私に彼女との思い出、人生の試練を話してくれた。

彼女に語りかける様に。穏やかで、晴れやかな、表情だった。

母親の様に頼っていたのだと、そのとき感じた。

あの年、庭で見た最後のコスモスはまばらにしか咲いていなかった。

あんなに沢山咲き誇っていたのに。

今も私はコスモスを直視出来ない。